

農業×福祉の「農福連携」で かごしまを障害のある方と共にもっと元気に!

「農福連携」とは、障害のある方等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。この取組により、障害のある方の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手を確保するとともに収入の向上につながる可能性もあります。

社会福祉法人

白鳩会 花の木農場(南大隅町)

2020ノウフクアワード
初代グランプリ受賞

農福連携のパイオニアとして、1972年から障害のある方の働き場所の確保のため農業に取り組み、お茶の生産や養豚事業なども行っています。そのほか、県内直営のアンテナショップやレストランでは、施設利用者が接客もするなど多角的に障害のある方等の就労・社会参画を支援しています。



茶の収穫作業の様子



食肉加工業の様子



牛への餌やり風景



農場で加工・販売している
茶製品とハム・ソーセージ等

春と秋の収穫祭 ノウフクマルシェ

毎年春と秋の年2回、県内の障害者就労施設等で生産された農産物や加工品の販売を行う農福マルシェを開催しています。今秋は、鹿児島中央駅AMU広場で10月に開催し、今回で17回目となりました。農産物をはじめ、ジャム、スイーツ、ドリップコーヒー、ワインなどの加工品や手芸品などさまざまな商品を販売し、多くの来場者でぎわいました。来春開催される際は、ぜひご来場ください。



農福連携の商品を購入するには?

オンラインショップ「薩摩てんこ盛り市場」
(運営:かごしま障がい者共同受注センター)にて一部購入できます。



農福連携について相談したいときは?

かごしま障がい者共同受注センター
障害者就労施設等と農業者等とのマッチング
支援や、相談対応を行っています。



〈問い合わせ先〉 障害福祉課 099-286-2749

北朝鮮による拉致問題の一時も早い解決を目指して ～皆さまのお力を貸してください～

北朝鮮による拉致問題とは

1970年代から1980年代にかけて、北朝鮮は多くの日本人を本人の意思に反して連れ去りました。政府が北朝鮮による拉致被害者として認定している17名のうち、帰国を果たしたのはたったの5名であり、残りの12名についてはいまだ帰国できません。このほかにも拉致の可能性が疑われる方が多数存在しています。

本県の拉致被害者

1978年8月12日、2人は「夕日を見に行く」と言って日置市の吹上浜海岸に出かけたまま、こつぜんと姿を消しました。



市川 修一さん
(当時23歳)



増元 るみ子さん
(当時24歳)

拉致被害者ご家族からのメッセージ



市川 健一さん
(市川修一さんの兄)

弟、市川修一が北朝鮮に拉致されて47年になります。理不尽に拉致された被害者を半世紀近くも救出できない現状にやるせなさと憤りでいっぱいです。国民の強い支持で外交を動かせます。全拉致被害者帰国実現のために、皆さま方のお力をどうか私達家族にお貸しください。お願ひいたします。

12月10日～16日は「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」

県内各地で「パネル展」・「ライトアップ」を実施します。
ぜひお越しください。



▲詳しくはこちら

ブルーリボン
拉致被害者の生存
と救出を信じる意
思表示を表して
います。

〈問い合わせ先〉 障害福祉課 099-286-2828